

山口大学医学部附属病院で診療を受けられる皆様へ

当院では、以下の研究を実施しておりますのでお知らせいたします。

また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、以下の問合せ先までお申出ください。

その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

① 研究課題名	黄斑部滲出病変の病態と治療効果に関する因子の調査 2024		
② 実施予定期間	研究実施許可後 から 2027年3月31日		
③ 対象患者	対象期間中に当院を初めて受診された黄斑部滲出病変を有する患者さん		
④ 対象期間	2010年1月1日 から 2024年10月31日		
⑤ 研究機関の名称	山口大学医学部附属病院		
⑥ 対象診療科	眼科		
⑦ 研究責任者	氏名	木村 和博	所属 山口大学大学院医学系研究科眼科
⑧ 使用する情報等	<p>研究対象者背景： 識別コード、初回治療時年齢、生年月、性別、身長、体重、原疾患、合併症、既往歴、現病歴</p> <p>眼科検査： 視力、眼圧、眼科検査所見、眼科画像データ（眼底写真、OCTなど）</p> <p>薬剤名や手術術式などの治療法、血液検査の結果（あれば）</p>		
⑨ 研究の概要	<p>黄斑は目の奥で光を感じる網膜の中心で、視力を出す重要な部位のため、この黄斑にむくみや出血、網膜剥離など（滲出病変）を生じることは重大な視機能の低下を起こします。この黄斑部滲出病変に対して、以前はレーザーや手術などの外科的治療が行われていましたが、2000年代に入ってから薬物治療がより有効であることが分かってきており、使用できる薬剤も年々増えてきています。当院でも2010年以降これらの治療を順次導入してきましたが、黄斑部滲出病変に対する治療法の選択肢は多岐に渡るようになり、複数の薬剤を使用する症例も増加してきています。一方で、これらの治療法がどのような背景因子を有する患者さんに対してどの程度有効なのかについては未だ明らかになっていません。</p> <p>本研究では、黄斑部滲出病変の患者さんの治療成果を調査し、おのこの患者さんにより良い治療法を見出すために、その患者さんの背景や眼所見、用いられた治療法などの因子がどのように関連しているのかを調べます。特に、現在黄斑部滲出病変の主要な治療法である抗VEGF薬については、使用した薬剤や投与間隔が治療効果に与える影響を調査します。</p>		
⑩ 倫理審査	研究実施許可日	2024年12月13日	
⑪ 研究計画書等の閲覧等	<p>研究計画書及び研究の方法に関する資料を他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で入手又は閲覧できます。</p> <p>詳細な方法に関しては以下の問い合わせ先にご連絡ください。</p>		

⑫ 結果の公表	学会や論文等で公表します。		
⑬ 個人情報の保護	結果を公表する場合、個人が特定されることはありません。		
⑭ 知的財産権	山口大学に帰属します。		
⑮ 研究の資金源	山口大学大学院医学系研究科眼科学の奨学寄附金		
⑯ 利益相反	ありません。関連する薬剤を販売している企業からの寄附金の受け入れはありません。		
⑰ 問い合わせ先・ 相談窓口	山口大学医学部附属病院 眼科 担当者：湧田 真紀子		
	電話	0836-22-2278	FAX 0836-22-2334